

## 実用新案公報

JP 48-9908 Y1

④公告 昭和48年(1973) 3月15日

(全2頁)

1

## ⑤金属箔積層物による包装体

②実 願 昭45-92928

②出 願 昭45(1970)9月21日

②考 案 者 堤陽太郎

横浜市戸塚区笠間町285

⑦出 願 人 東洋製罐株式会社

東京都千代田区内幸町1の3の1

④代 理 人 弁理士 菊地弘 外2名

## 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示し、第1図は正面図、第2図は第1図のII-II線に沿う断面図である。

## 考案の詳細な説明

本考案はアルミニウム箔のような金属箔を合成樹脂フィルムを積層したシートの周囲を密封して食品、薬品などを包装したこれらの包装体に関するものである。

食品、薬品の包装体として金属箔に合成樹脂フィルムを積層したシートの周囲を密封して袋状にしたものが広く一般に使用されており、とくにアルミニウム箔の積層シートは防湿性が高く、長期間の保存に適しているので多用されている。しかし、金属箔を使用したこのような包装体はシール部が見えないため、シールが確実に行われているか否かを判断することが困難である。そしてとくに周囲4方のうち、内容物を容れる口部は粉末、液体などが付着し易く、シールが不確実になるおそれが多い。

そこで本考案では内容物を容れる口部のシール部はアルミニウム箔のような金属箔端部を欠いた構成の袋にすることによつて、比較的簡単な構成でありながら上記シール部の良、否の判断が視覚的に容易に行えるようにしたものである。

以下本考案の一実施例について図面を参照して説明する。図面において1は袋体を構成する積層シートで、アルミニウム箔2の外面にはポリエス

2

テル、ナイロンのような強度の大きい合成樹脂フィルム3が、内面にはポリオレフィン系のヒートシールし易い合成樹脂フィルム4が、それぞれ積層されている。上記積層シート1の口部5を除く3方の周囲をヒートシールして袋を構成し、上記口部5から食品、薬品のような内容物7を容れ、口部5をヒートシールするものである。そしてこの場合に予め上記口部5ではアルミニウム箔2を短かくしておき、口部5のシール部6の周縁部に袋の全幅にわたつてアルミニウム箔2を欠いたシール判断部6aを形成したものである。

なお、上記実施例ではアルミニウム箔2の端部2aも口部5のシール部6に一部が存在するようにしたがアルミニウム箔を更に短かくして口部のシール部全体がアルミニウム箔を欠くようにしてもよく、このようにしても防湿、遮光性の低下が殆んどないので、口部のシール部内縁近くにアルミニウム箔の端縁を位置させればよく、シール及びアルミニウム箔の長さは高精度にする必要がない。

また本考案において、積層シートを2つ折りして連着された底部は装飾及び補強のためのシールにしてもよい。

以上説明したように本考案によれば、内容物を容れる口部の少くとも一部が袋の幅方向全体にわたつてアルミニウム箔のような金属箔を欠くのでこの部分は透明あるいは半透明になり、食品薬品のような内容物の付着などシールの良、否を容易に視覚的に判断することができ、また構成及びシール作業も従来のものに比べて殆んど複雑にならないで容易に提供できるなどの効果がある。

## ⑥実用新案登録請求の範囲

アルミニウム箔のような金属箔に合成樹脂フィルムを積層した積層シートの周囲を密封した袋内に内容物を収容したものにおいて、上記内容物を容れる口部のシール部の少なくとも一部に袋の幅方向全体にわたつて金属箔を欠く部分を形成したことを特徴とする金属箔積層物による包装体。

